

がんを生きる

演題 生きてるだけで金メダル

落語 病院日記Ⅲ



第3回

通ひ
くち

口ち

強し

落

語

講

演

会

日時 2007年10月21日(日)

開演 13:00 (開場 12:00)

場所 盛岡劇場メインホール

前売 1,000円 (当日 1,200円)

主催 岩手にホスピス設置を願う会

お問い合わせ 019-646-6524 加藤

後援 岩手県、岩手県教育委員会、岩手県社会福祉協議会、盛岡市、盛岡市教育委員会、盛岡市社会福祉協議会、岩手県医師会、盛岡市医師会、岩手県看護協会、岩手県薬剤師会、盛岡薬剤師会、岩手県訪問看護ステーション協議会、岩手県介護支援専門員協会、岩手県ホームヘルパー協議会、岩手県予防医学協会、岩手県対ガン協会、岩手経済同友会、いわて生活協同組合、岩手日報社、盛岡タイムス、朝日新聞盛岡総局、読売新聞東京本社盛岡支局、毎日新聞盛岡支局、産経新聞盛岡支局、河北新報社盛岡総局、NHK盛岡放送局、IBC岩手放送、テレビ岩手、岩手朝日テレビ、めんこいテレビ、エフエム岩手、ラヂオもりおか、マ・シェリ、がん患者と家族の会・かたくりの会、乳がん患者の会・アイリスの会、がん家族の会・おでんせの会、ペイシェントアクティブ・びわの会、乳がん患者の会・ひまわりの会(敬称略、順不同)チケット取り扱い カワトクブレイカイド、アネックスカワトク、おでって、NACS(紫波町)、いわて生活協同組合(盛岡各店)

◆◆◆◆◆◆◆◆ 樋口強さんのプロフィール ◆◆◆◆◆◆◆◆

- ・企業人として東レ㈱で新規事業立ち上げの最前線にいた1996年、43歳のとき、悪性度が高く生存率が極めて低い肺小細胞がんに出会う。
- ・手術と抗がん剤治療で乗り越えたが、抗がん剤の後遺症である全身のシビレは今でも続いている。日常生活に不自由はあるものの家庭での毎日のリハビリで「普通のことが普通にできる喜び」がいのちを支えてくれている。
- ・術後5年を機に開催した「いのちに感謝の独演会」が毎年の恒例となり、2007年9月で第7回目を迎える。「笑いは最高の抗がん剤」として、毎年、東京・深川江戸資料館小劇場の高座にかかる涙と笑いの創作落語『病院日記』が大きな反響を呼び、全国からたくさんのがんの仲間と家族が駆けつける。
- ・NHKテレビ「生活ほっとモーニング」・

「こころの時代」、フジテレビ「アンビリバボー」、テレビ朝日「テレメンタリー」、読売新聞看板コラム「医療ルネサンス」他多数のメディアがその生き様を取り上げ、全国からたくさんの共感と感動の反響が届く。また2005年には日本経済新聞人気コラム「患者の目」に一ヶ月間エッセイを連載し高い評価を得た。

- ・現在は執筆活動の傍ら、「笑いは最高の抗がん剤」、「生き方は自分が決める」、「普通のことが普通にできる喜び」、「生きてるだけで金メダル」などをテーマに全国で落語講演会を開催している。
- ・主な著書に以下がある。「いのちの落語」(文藝春秋刊)「つかむ勇気 手放す勇気」(春陽堂書店刊)。2007年今秋には次著の上梓を予定している。
- ・全日本社会人落語協会副会長兼事務局長

メ ッ セ ジ

「みなさん、おかわりありませんか?」、会場いっぱいのがんの仲間と家族に樋口氏が問いかけます。かわりのないことが、何よりも幸せであることを誰よりも身をもって体験しているから共有できる不思議な時間がながれます。

創作落語「病院日記」では、病院での生活のお話が、飛び出します。その話に、「あ~、わたしもそうそう」辛かった苦しかったと、一喜一憂しながら可笑しいはずなのに涙がボロボロ出て止まらないのです。何とも奇妙でありながら、とても心地よい自分の居場所を感じます。

今年で三回目の講演会ですが、特徴的なのはリピーターの方が多く、何度も聞いて同じ感動を頂くと言う声が絶えないことです。

それは、樋口氏そのものが、多くのがん仲間の「道

しるべ」であり、「代弁者」だからではないでしょうか?素直に今生きていることに感謝できる瞬間を感じることが出来るのです。「2人にひとりは、がんにかかる時代」人ごとではありません。

突然、がんと出会い、患者や家族には今までとまったく違った世界が広がりとまどいます。一人思い悩み、何が辛く悲しいのか、伝える手段も見つからない。何年たっても消えることのない再発の不安や、症状が重くなれば襲ってくる死の恐怖。「がんに終わりはありません」

「患者・家族・医療者」様々な人々が同じ目線で語り合いわかりあえば、体の痛みも心の辛さも癒され、誰もが最後まで自分らしく生きることのできるホスピスがみつかるはずです。

岩手にホスピス設置を願う会